

発言通告書（総括表）

令和8年第1回定例会 代表質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
1	岩佐議員 (次世代)	<ol style="list-style-type: none"> 令和8年度予算編成について 団体支援のあり方について 福祉のラストワンマイルをどう埋めるか 自治体間連携について 文化芸術助成について 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施を前提とした物価高騰対策について ・真に支援を必要とする層への重点的な対策等。 ・自主財源確保のためのサブリース方式について ・町会の「共助」の中核としての役割、公益的機能を明確にし、事業補助と団体基盤支援を整理してはどうか。 ・終活支援体制の構築とアウトリーチの強化について ・身元保証支援について ・孤立対策 ・防災体制や事業実施において、近隣自治体との広域的な連携をより積極的に進めてはどうか。 ・教育と文化のまちにふさわしい文化事業助成を。 	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者
2	小林議員 (自民党)	<ol style="list-style-type: none"> 令和8年度当初予算編成の基本姿勢と持続可能な財政運営について 物価高騰対策と区民生活支援について 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 物価上昇、金利動向、建設費高騰及び人口増加といった構造変化を踏まえた予算編成の基本方針について (2) 大型事業同時進行に伴う総事業費及び将来の維持管理費を含めた中長期財政負担の見通しと管理方針について (3) 基金繰入増加の評価及び財政規律確保の考え方について (4) 基金の実物資産化（土地取得等）を含む戦略的活用方針について (5) 消費税減税等による地方消費税交付金減収リスクへの対応について (1) ギフト券事業、家賃助成、給食費・教材費補助の政策効果検証について (2) 時限的措置と恒常制度の整理方針について (3) 給食費・家賃助成の将来的制度的位置付けについて (4) 現金給付型支援から構造的支援制度への転換の方向性について 	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者

発言通告書（総括表）

令和8年第1回定例会 代表質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
2	小林議員 (自民党)	<p>3. 子ども・教育・次世代育成施策について</p> <p>4. 区民生活に身近な都市環境施策について</p> <p>5. 住民に身近な防災対策の具体化について</p> <p>6. 区内モビリティ施策の現状と公平性・ガバナンスについて</p> <p>7. 行政DX推進及び組織運営、将来像について</p>	<p>(1) ICT教育及び学用品無償化の成果指標と検証体制について</p> <p>(2) 私立学校就学者等支援クーポンの制度理念及び公立在籍者との公平性確保について</p> <p>(3) 私学支援拡充の財政持続可能性の評価について</p> <p>(4) 施策拡充に伴う学校・保育現場の負担増に対する人員体制整備について</p> <p>(1) 秋葉原地区におけるスマートごみ箱設置の政策判断と費用対効果について</p> <p>(2) 生活環境条例との整合性について</p> <p>(3) 排出者責任及び事業者責任の制度整理と検討状況について</p> <p>(4) 効果検証指標及び見直し基準について</p> <p>(1) 防災ベンチトイレ、トレーラートイレ等の迅速導入について</p> <p>(2) 充電機能付き防災ベンチ等、日常利用型防災設備の整備方針について</p> <p>(3) 防災船着き場等の平時活用の具体化について</p> <p>(4) ドローン活用訓練の実施と今後の展開について</p> <p>(5) 即効性ある身近な防災強化策の優先順位について</p> <p>(1) 区営シェアサイクル「ちよくる」のポート不足の要因分析及び改善策について</p> <p>(2) 民間事業者との制度差及び競争条件の公平性について</p> <p>(3) 民間事業者の実証実験の成果検証及び課題整理について</p> <p>(4) 意思決定過程の透明性確保について</p> <p>(5) 安全確保及び利用ルール整備の現状と課題について</p> <p>(6) ポート共同利用及びデータ連携の可能性について</p> <p>(1) DX推進の工程管理及び成果指標について</p> <p>(2) 職員数増加下における業務効率化及び生産性向上策について</p> <p>(3) 将来需要を見据えた職員体制の構想について</p> <p>(4) DX人材確保及び人材マネジメント戦略について</p>	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者

発言通告書（総括表）

令和8年第1回定例会 代表質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
3	白川議員 (自 民)	<p>(1) 千代田区における外国人問題について、民泊や生活マナーを起点に、治安や教育までを含めて整理し、区民やマンション管理組合などからの相談にワンストップで対応できる体制を構築する考えはあるか。</p> <p>(2) 区長がこれまで進めてきた子育て・教育支援を基盤としつつ、今後は「納税者のための区政」という視点をより強化し、とりわけ独身の納税者や若い勤労世代への配慮を高めることで、将来の結婚や出産につながる環境を整えていく考えはあるか。</p> <p>(3) 区長は、区役所における職員の年齢構成のばらつきと、それに伴うノウハウ継承の課題をどのように認識されているか。人事評価制度、OJT・人材育成、DX・業務標準化を相互に連動させながら、経験や知見が世代を超えて循環する、持続可能な組織体制をどのように構築していくか。</p>	<p>1. 外国人問題（民泊・治安・教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人問題は整理と優先順位づけが必要。 区民の関心は「マナー」と「民泊」。 ローカルルールが伝わらないことが核心。 多言語の注意喚起を区名入りで支援するなど、ワンストップ体制を整備すべき。 民泊は「不安の蓄積」を通じて治安にも直結。対策のみでなく、発信が重要。 教育現場には負荷を集中させず支援体制を構築。 <p>2. 納税者のための区政</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子化の根本には「結婚する若者の減少」＝若者の賃金の低さ。 だが、区単独で賃金を上げるのは困難 でも、独身納税者・若い勤労世代への配慮を強める区政が、長期的に少子化緩和と財政体力の強化につながる。 <p>3. 組織力強化（人事・OJT・DX）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年齢構成のばらつきでノウハウが継承されにくく、形式知だけが残って硬直化する懸念。 現状を把握することが大切。 人事評価で「知を伝える行為」を評価し、OJT・育成を属人化させない仕組みが必要。 DX・業務標準化は手順の形式化だけでなく、判断基準や経験知の共有まで踏み込ませるべき。 	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者

発言通告書（総括表）

令和8年第1回定例会 代表質問

No.	発 言 者	発 言 事 項	発 言 要 旨	答 弁 を 求 め る 者
4	米田議員 (公 明)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和8年度当初予算編成と将来財政について ・ 医療DXについて ・ RS ウイルス感染症対策について ・ 文化財保存活用計画について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般会計916億円を超える過去最大規模となった令和8年度当初予算案について、区としての位置づけと基本姿勢を伺う。 ・ 単年度にとどまらず、10年・20年先を見据えた持続可能な財政運営をどのように確保していくのか伺う。 ・ 基金の計画的活用と運用の透明性について ・ スマート化の推進と区民の安心について ・ 介護人材確保と現場支援について ・ 区民が将来にわたり安心できる区政運営について ・ 医療データ連携基盤の整備について ・ 健診データ連携による業務改善について ・ 公会計情報と成果の見える化について ・ 母子免疫ワクチンの定期接種化について ・ 抗体製剤について ・ 高齢者へのRSウイルス対策について ・ 文化財保存活用計画と調査員制度について 	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者

発言通告書（総括表）

令和8年第1回定例会 一般質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
1	永田議員 (自民)	外国人問題について 退職自衛官の防災、情報活動での活用について	全国的に在留外国人の増加傾向が続いている。これまでの「多文化共生」だけでは社会が混乱し問題が深刻になりかねない。相互理解が基本ではあるが、「秩序ある地域社会の維持」が前提だ。そのために、政府では規制強化、法整備を進めている。本区では、中国資本による投機目的の不動産購入が問題になっているが、中国人のみが倍増している実態を踏まえた外国人対策が必要ではないか。 緊急事態、大規模災害時に、地方自治体だけでは平時から有事への対応が困難なことが指摘されている。区の危機管理体制強化のためには、有事の即応体制を持つ自衛隊の専門知識の活用が最も有効と考える。東京都では退職自衛官を危機管理監として採用しており、23区内では品川、渋谷区等で防災、危機管理担当の常勤職員として採用している。 現在、政府はインテリジェンス強化のため「国家情報戦略」の策定を検討している。情報を集約する「国家情報局」の創設となれば、危機管理監が中心となって情報提供、収集、分析を担うこともできる。防災はもとより他自治体にはないインテリジェンスの観点から退職自衛官の採用を求める。	区長 関係 理事者
2	はやお議員 (自民党)	1. 中等教育政策の変遷と現在の立ち位置について	本区は平成14年度に「千代田区の中等教育将来像」を策定し、当時44～46%まで低下していた区立中学校進学率を背景に、「公立学校の復権」を掲げた。その象徴的施策が、平成18年度開校の区立中等教育学校（九段中等教育学校）である。 平成26年度の「中等教育の在り方検討会報告書」では、区立学校への進学率は約52%まで回復したものの、依然として私立・国立志向が高い実態が示された。 そして令和6年度からは「千代田区子育て・教育ビジョン」が策定され、「一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす」「多様なニーズへの対応」が強調されている。 (1)平成14年度策定の「千代田区の中等教育将来像」に基づき推進してきた「公立学校の復権」政策について、理念の達成度、成果及び課題をどのように総括しているのか。 (2)令和6年度開始の「千代田区子育て・教育ビジョン」において、区立学校をどのように位置付けているのか。多様な進学選択がある中で、公立学校の意義及び役割をどう定義しているのか。 (3)千代田区立九段中等教育学校の設置以降の教育成果、進学実績、定員充足率及び志願倍率の推移をどう分析しているのか。また、今後の質的高度化に向けた戦略は何か。	区長 教育 長 関係 理事者

発言通告書（総括表）

令和8年第1回定例会 一般質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
2	はやお議員 (自民党)	2. 私立学校就学者等支援クーポン（仮称）との整合性について	<p>現在検討されている「私立学校就学者等支援クーポン（仮称）」は、私立学校等に通う生徒への経済的支援を想定するものと理解している。</p> <p>しかし、これまで区は、区立中等教育学校の設置などを通じて区立学校への進学促進を政策目標としてきた。</p> <p>(1)私立学校就学者等支援クーポン（仮称）は、これまでの区立学校進学促進政策とどのように整合するのか。補完施策か、政策転換か、基本認識を問う。</p> <p>(2)区立学校の魅力向上策と私立就学支援策は理論的に両立するのか。教育ビジョンとの関係を踏まえた根拠を問う。</p> <p>(3)本事業における公金支出の公益性及び公平性をどのように担保するのか。区立学校への影響及び将来的な持続可能性についての見解を問う。</p>	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者
3	富山議員 (自 民)	安心して住み、学び、働き、訪れる秋葉原に	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移り変わるアキバラしさの認識 ・ 現状の認識、無法地帯を避けるための取り組み ・ スマートゴミ箱の設置&更なる活用について ・ 都市再生整備計画、秋葉原マスタープラン、ガイドラインの作成の必要性を問う。 	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者
4	えごし議員 (公 明)	骨活の推進	<p>骨の代謝バランスが崩れ、もろくなった状態の「骨粗しょう症」。高齢者や女性の発症リスクが高く、若者でも骨密度が低下して発症する可能性がある。全国では、「骨活」と称し、食事や運動、生活習慣の改善により骨密度と骨質を維持・向上させ、骨粗しょう症や将来の骨折を防ぐ取組を進める自治体もある。</p> <p>本区でもシルバートレーニングスタジオや骨密度測定会など行われているが、さらなる予防促進のため、区の考えを伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 骨粗しょう症予防について、取組の現状と課題は？ ・ 骨密度検査の拡充について <ul style="list-style-type: none"> ①骨密度測定会の土曜、休日開催 ②DXA法など高精度な測定への助成 ③区民健診に骨密度検査を ・ 転倒骨折への予防・啓発推進など 	区 長 関 係 理 事 者

発言通告書（総括表）

令和8年第1回定例会 一般質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
4	えごし議員 (公明)	区内のごみの課題について	<ul style="list-style-type: none"> ・公園のごみについて <ul style="list-style-type: none"> ①現状の課題と取組は？ ②公園へのごみ箱の設置 ③「きれいな街、千代田」へ、イメージの向上、定着の取組を ・粗大ごみについて <ul style="list-style-type: none"> ①処理手数料のオンライン決済を ②リサイクルについて 	区 長 関係 理事者
5	牛尾議員 (共産党)	<p>(1) 安心できる医療保険制度について</p> <p>(2) 高齢者が安心してくらすことができる千代田のために</p> <p>(3) 子どもたちみんなにゆきとどく教育のためにも教員の多忙化の解消を</p> <p>(4) 市街地再開発事業について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会保険料の削減のための高額療養費制度の見直しやOTC類似薬の保険適用除外には反対すべき ② 国民健康保険料の負担軽減や施策の拡充をもとめる。 ③ 75歳以上の医療費窓口負担の軽減策を検討してはどうか ① シルバーパスの購入費への助成を求める ② 高齢者へのタクシー券支給の検討を ③ 高齢者の住まいへの支援の拡充について ① 教員の多忙化解消がどのくらい進んでいるのか区の認識を聞き、子どもたちに十分に向き合える教育がおこなえるよう教育現場へのさらなる支援を求める ① 市街地再開発事業への補助金について質問する 	区 長 教育 長 関係 理事者
6	田中議員 (国民)	欧州の混迷から学ぶ「多文化共生」の限界と、千代田区における「同化主義」への転換について	<ul style="list-style-type: none"> ・区の施策において、日本人に共生を強いるのではなく、日本に住む以上、移住者に対して日本の文化、慣習、規律への同化を求める教育・啓発活動へ舵を切るべきではないか ・窓口や教育現場、地域でのトラブル等、現場の職員や教員・生徒、地域住民に皺寄せがいき、疲弊する現状をどう認識し、具体的にどう守るつもりか、本区の見解を伺う 	区 長 関係 理事者

発言通告書（総括表）

令和8年第1回定例会 一般質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
7	ふかみ議員 (次世代)	<p>現役世代のケアラー（子育て・介護・病児・ひとり親）に対する就労継続支援について</p> <p>(1) 情報接続の強化について</p> <p>(2) 移動負担の軽減について</p> <p>(3) 重度化予防に向けたデータ活用について</p>	<p>経済成長と物価上昇、仕事負担増大の中、現役世代ケアラーは経済・時間・心身の負担が大きい。過重負担を予防し、就労継続と生活の安定を支える環境整備について問う。</p> <p>子どもや高齢者の「被支援者」視点だけでなく、ケアラー視点で情報を整理・提供する考えはあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ オンライン窓口において、制度提案や申請につながる個別化質問テンプレート（プロンプト）設計と掲載、および動線整備を行う考えについて、区の見解を問う。 ✓ ライフステージ（含 要支援・要介護認定時）に応じて、支援情報を自動で家族に届けるプッシュ型支援の強化について、区の見解を問う。 <p>ケアの人材不足が深刻化する中、移動は時間・費用の負担が大きく、突発対応は過重負担や離職要因となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 遠距離介護や緊急時対応の移動費負担への配慮や移動支援の仕組み化について、区の見解を問う。 ✓ オンライン面談の標準化や、見守り・服薬支援等のDX活用により、移動回数を減らす仕組みづくりについて、区の見解を問う。 <p>本区では、国保データを活用したデータヘルス計画を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 重度化する人とならない人の差を、経年的に決定木分析などの解釈可能な手法で要因を抽出し、保健事業・介護予防と一体運用する考えはあるか。 ✓ 重度化予防は家族負担の抑制と離職回避につながる。データ活用を就労継続支援につなげる方針について、区の見解を問う。 	<p>区 長 教 育 長 関 係 理 事 者</p>

発言通告書（総括表）

令和8年第1回定例会 一般質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
8	小枝議員 (声)	1、文化継承の担い手支援 2、DXと民主主義 3、二元代表制の考え方	<p>1) 文化継承者が商売を続け、住み続けられる千代田区の予算となっているか。</p> <p>2) 文化継承をになう官民協働のプラットフォームとしての『文化財団』が存在していない、必要ではないか。文化財を保存・活用する力を強め、専門的視点を強めることで「教育と文化」を魅力あるまちづくりのよりどころとして動かす官民のテーブルの必要性がある。</p> <p>3) 同業種および多様な異業種団体を縦横につなぐことが文化継承に有効ではないか。</p> <p>4) 町会・商店街など公共的団体の主力を担う方々の負担軽減のため、バックオフィス人材の活用を。統廃合の手続きも必要、ほか。</p> <p>代表制民主主義を補完する直接民主主義は極めて重要。千代田区は企画部門を中心に10年以上前からインターネット世論調査を実施してきた。それらのノウハウを共有し、各部各課の事業執行において、変化と多様性の時代に対応する協働参画と対話の手法として、確立してはどうか。住民・在勤・在学、性別、世代別、地域別に、データをとれる手法として有効。</p> <p>総務課における「職務に関する法律相談」と千代田区議会の独立性について。</p>	区 長 関係 理事 者
9	桜井議員 (自民)	○高校授業料無償化と区立九段中等教育学校の今後の対応について	<p>○国公立だけでなく私立においても所得制限撤廃で授業料無償化が始まる。</p> <p>○今回の授業料無償化に伴い、生徒の学校選びにも変化が起きるのではないかと。私立校への財政負担が軽くなることで公立から私立への応募に変化が起きてくることが考えられる。</p> <p>○昨今の都立高校の入学者応募状況を見てみると前年割れをしている年が多く、区はこのような現状をどのように把握され、どのような見解をお持ちか。また、九段中等教育学校においても区外からの受検数（B区分）では年々減少が見られている。区の見解を求める</p> <p>○区立九段中等教育学校がアピールする魅力ある学校とは何か。これから受検をする子供たちに支持される学校とはどのような学校を考えているか。</p>	区 教 育 長 関係 理事 者

発言通告書（総括表）

令和8年第1回定例会 一般質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
9	桜井議員 (自民)	○いきいきプラザ一番町の改修について	<p>○いきいきプラザは平成7年、千代田区の福祉施設の拠点として一番町にあった旧国鉄総裁公館跡地に建設、スタートして31年を迎える。当時、高齢化社会への対応と区民福祉の充実を目的に①高齢者サービス機能②文化コミュニティ機能③健康・保健機能をもった総合公共施設として建設された。</p> <p>○いきいきプラザの大規模改修が検討されてから8年が経つ。大規模改修による移転先の課題や令和5年度からの新たな指定管理者が決定。コロナウイルスの感染予防から個室化の必要性。高齢者住宅の整備なども求められている。また、経年劣化による機能更新も対応が求められており、区は早急に前へ進めるべきではないか。</p> <p>○高齢者利用の多い施設の性格上、居ながらの改修には無理があり、このままでは何も進まない。本区が所有する留保財産の活用など様々な選択肢も含め検討する必要があると思うがどうか。</p>	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者
10	小野議員 (次世代)	<p>1、庁内での働き方について</p> <p>2、教育委員会と学校の連携によるラストワンマイルの実現</p> <p>3、観光振興について</p> <p>4、本区の目指す自転車先進都市について</p>	<p>(1) 庁内における生成 ai 活用の目的と進捗状況についてうかがう。</p> <p>(2) 政策施策の立案と可視化業務の外部支援について、今後の方向性をうかがう。</p> <p>(3) 面談メモの活用範囲の拡充について提案する。</p> <p>(1) 制度や施策が整っているにも関わらず、必要とする当事者に届かない場合がある。こうした状況を極力なくすための今後の連携と手段についてうかがう。</p> <p>(1) 千代田区オリジナルの限定グッズで区の魅力を PR してはいかがか。</p> <p>(2) スマートゴミ箱へのラッピングでインバウンド向けの PR など検討してはいかがか。</p> <p>(1) 景観の美化にも配慮した既設駐輪場と新設駐輪場の整備についてうかがう。</p> <p>(2) 成長期の子ども向けの自転車トレーニング支援（移動式交通公園）についてうかがう。</p>	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者

発言通告書（総括表）

令和8年第1回定例会 一般質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
11	のざわ議員 (維新)	<p>1. 空きオフィス・空き住戸のフォードブル住宅転用政策</p> <p>2. 「ふるさと住民登録制度」</p> <p>3. 「ちよだ学びフェス」から敷衍質問</p> <p>4. 共同親権</p>	<p>(1) 転用対象物件の実態把握とデータベース化</p> <p>(2) 補助と規制緩和の一体運用</p> <p>(3) 財政の持続可能性</p> <p>(4) 「コミュニティ維持」という政策目的の明確化</p> <p>(1) 千代田区を離れた方々の転出理由などを、今後の政策に活かすため分析</p> <p>(2) ふるさと住民登録制度の今後の具体的対応・基本的取り組み姿勢</p> <p>(3) ふるさと住民登録制度での DID/VC の活用</p> <p>(4) 千代田区住民サービスでの DID/VC システムの導入試行</p> <p>(1) 「ちよだ学びフェス」定期開催と拡大発展</p> <p>(2) 区立小中学校への「訪問授業」「出前授業」仕組み構築</p> <p>(3) 「半日・1日体験型プログラム」や「課題解決型ワークショップ」を制度化</p> <p>(4) 「千代田モデル」として発展させる区の意向確認</p> <p>(1) 区の本年からの導入にあたり具体的準備（職員研修・区民への周知啓発含む）</p> <p>(2) 別居親の学校行事への参加</p> <p>(3) 同居親と別居親双方が親権者である場合の連絡の現況</p>	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者
12	岩田議員 (次世代)	<p>旧永田町小学校の活用について</p> <p>千代田区における『公益通報制度』とその周辺問題について問う</p>	<p>まだ予算もついていない事案であるにもかかわらず、『旧永田町小学校 解体』という報道がされている。</p> <p>議決も経ていないのに既に方針が決まっているかのような報道であり、誠に遺憾である。</p> <p>また区ホームページにも『当該施設を解体することとしました』とある。</p> <p>それらの件も含め今後の活用の仕方について問う。</p> <p>そもそも本区において『公益通報制度』をどのように考えているか</p> <p>本区の事例・他自治体の事例はどのようなものがあつたのか</p> <p>またその周辺問題としてどのようなものがあつたのか</p> <p>問題に対してどのように対処したのか</p> <p>何か問題は無かつたか</p> <p>今後はどのように対処すべきなのか</p> <p>等について問う。</p>	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者